

令和7年度「データサイエンス基礎」履修者アンケート結果について

1. 実施期間 令和8年1月6日（火）～1月23日（金）
2. 実施方法 Microsoft Forms（無記名）を用い、「データサイエンス基礎」第12回～第14回の授業において、ポータル課題の最後にアンケート回答用のリンク（URL）を掲出した。
3. 対象者 令和7年度教育課程生（1年生全員）
4. アンケート対象者数、回答者数

学部	学科	履修者数	回答者数	回答率
文学部	人文学科	62	45	72.6%
	現代文化表現学科	104	65	62.5%
	コミュニケーション文化学科	16	9	56.3%
マネジメント学部	マネジメント学科	81	46	56.8%
	生活環境マネジメント学科	20	9	45.0%
観光コミュニティ学部	観光デザイン学科	50	31	62.0%
	まちづくり学科	17	11	64.7%
心理学部	臨床心理学科	111	72	64.9%
合計		461	288	62.5%

5. 設問ごとの集計結果

1. データサイエンスの基礎的な考え方を理解し、学修内容を自分の言葉で説明できるようになった。

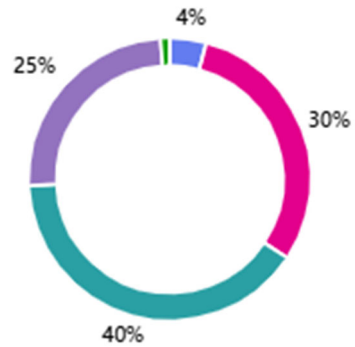


2. 社会におけるデータ・AI活用の事例について説明できるようになった。



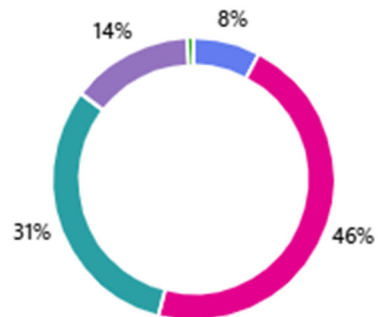
3. 統計的知識について理解し、説明できるようになった。

● 非常にそう思う	12
● そう思う	87
● どちらともいえない	115
● あまりそう思わない	71
● まったくそう思わない	3



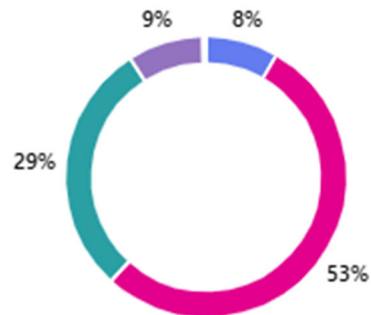
4. データ・AI を利活用するうえでの留意事項を説明できるようになった。

● 非常にそう思う	22
● そう思う	133
● どちらともいえない	90
● あまりそう思わない	40
● まったくそう思わない	2



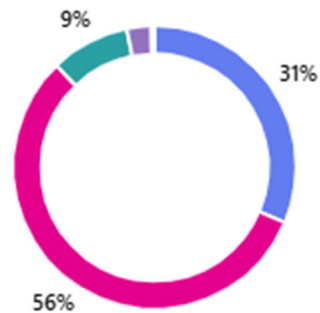
5. 授業で扱われた内容を概ね理解できた。

● 非常にそう思う	24
● そう思う	154
● どちらともいえない	84
● あまりそう思わない	25
● まったくそう思わない	1



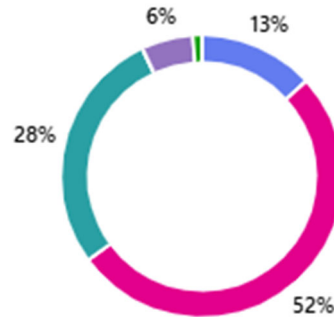
6. 授業内のミニテストは、内容の理解を深めるのに役立った。

● 非常にそう思う	90
● そう思う	162
● どちらともいえない	26
● あまりそう思わない	8
● まったくそう思わない	1



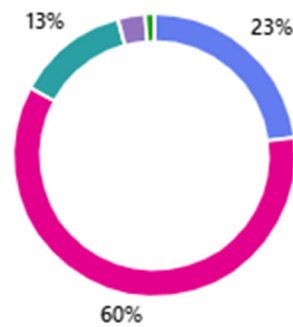
7. この授業は、他の学生にも勧めたいと思える内容だった。

● 非常にそう思う	38
● そう思う	149
● どちらともいえない	81
● あまりそう思わない	17
● まったくそう思わない	3



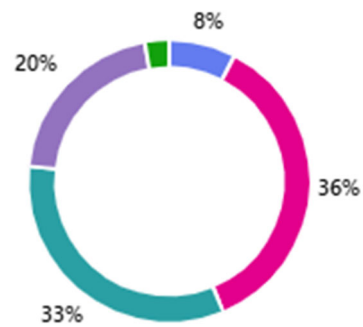
8. データサイエンスの重要性を実感できた。

● 非常にそう思う	66
● そう思う	172
● どちらともいえない	37
● あまりそう思わない	9
● まったくそう思わない	3



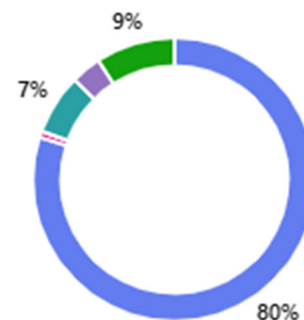
9. 今後さらにデータサイエンスを学びたいと思う。

● 非常にそう思う	22
● そう思う	104
● どちらともいえない	95
● あまりそう思わない	59
● まったくそう思わない	8



10. この授業はオンデマンド配信型で実施しましたが、あなたはどのような授業形態が最も学びやすいと感じますか？

● オンデマンド型（自分のペースで視聴できる方がよい）	230
● リアルタイム型（その場で質問できる方がよい）	2
● 対面授業（教室で直接説明を聞く方がよい）	20
● 一部対面授業（基本はオンデマンド配信）	10
● どの形式でもよい・特にこだわりはない	26



11. この授業を受けて良かった点や、今後の改善に向けた意見・要望があれば教えてください。

(自由記述)

- ・ 普段生きていたら深くは考えないことをデータサイエンスの講義を通して知ることができて良かった。
- ・ ミニテストで振り返りができるので良かった。
- ・ この授業では動画がついていたので、資料で分からない部分も補うことができて良かったです。また、資料も説明や例が細かに記載されていたので非常に理解の手助けになりました。
- ・ 現在ではインターネットやAIをよく活用しているため今回のような講義はとても私たちにとってためになるものだと思います。
- ・ オンデマンドでいつでも視聴できるのがすごくよかった。
- ・ 資料と動画とテストを活用して、理解を深めることができた。
- ・ しっかりと内容の説明が書かれてあってその後に小テストを実践した事によってより理解を深める事が出来ました。
- ・ データサイエンスは難しそうで苦手だったが授業ではわかりやすく説明してくれていたの基礎は理解できた気がしたので良かったです。
- ・ この授業を受けて良かった点はテストを何度も受けられたことです。全問正解まで何度も受けられることでより理解することが出来ました。
- ・ AI や数字について詳しくなれた点が良かった。
- ・ 解説動画が専門語句を何も知らなかった私でも理解しやすかった。
- ・ とても難しかったです、これからは役立つ大切な知識だと思います。ありがとうございました。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営会議

(責任者名) 山澤成康
 (役職名) 副学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>令和7年度の履修・修得状況は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム履修状況 1年次必修科目として、461名が履修した。 ・単位修得状況 プログラム履修者461名に対し、単位修得者は416名であった。内訳は、S評価74名(16.1%)、A評価241名(52.3%)、B評価68名(14.8%)、C評価33名(7.2%)である。 履修者の約9割が単位を修得しており、概ね良好な修得状況である。
学修成果	<p>本学では学期末に授業評価アンケートを実施しているが、本プログラム履修生に対しては、既存の授業評価アンケートに加え、独自のアンケートを実施し、授業の到達目標の達成度や内容理解度等を把握している。 「データサイエンス基礎」については、履修者461名中288名から回答が得られた。</p> <p>アンケートの結果、「データサイエンスの基礎的な考え方を理解し、学修内容を自分の言葉で説明できるようになった」という設問では、「非常にそう思う」が5%、「そう思う」が41%であった。 また、「社会におけるデータ・AI活用の事例について説明できるようになった」という設問では、「非常にそう思う」が5%、「そう思う」が46%であった。 「統計的知識について理解し、説明できるようになった」という設問では、「非常にそう思う」が4%、「そう思う」が30%であった。 「データ・AIを活用するうえでの留意事項を説明できるようになった」という設問では、「非常にそう思う」が8%、「そう思う」が46%であった。</p> <p>統計的知識については苦手意識を示す学生が比較的多い傾向が見られたが、その他の項目では「そう思う」以上の回答が50%前後を占めており、本授業において一定の学修成果が得られていると考えられる。</p>
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	<p>独自のアンケートの結果では、「授業で扱われた内容を概ね理解できた。」という設問に対し、「非常にそう思う」が8%、「そう思う」が53%であった。 また、「授業内のミニテストは、内容の理解を深めるのに役立った。」という設問に対しては、「非常にそう思う」が31%、「そう思う」が56%であった。</p> <p>これらの結果から、「そう思う」以上の回答がいずれの設問においても6割以上を占めており、授業内容について多くの学生が概ね理解できていることがうかがえる。また、授業内で実施しているミニテストについても理解の深化に有効であると認識されており、学修内容の定着に一定の効果があったと考えられる。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	<p>独自のアンケートの結果では、「この授業は、他の学生にも勧めたいと思える内容だった。」という設問に対し、「非常にそう思う」が13%、「そう思う」が52%であった。</p> <p>これらの結果から、「そう思う」以上の回答が65%を占めており、本授業は履修した学生にとって、他の学生にも勧めたいと思える内容として評価されていることがうかがえる。必修科目として実施している授業であるが、学生から概ね肯定的な評価が得られていると考えられる。</p>
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本学では、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営会議」を設置し、本プログラムの運営および教育内容の点検・改善について検討を行っている。同会議では、対象科目である「データサイエンス基礎」の履修状況や学生アンケートの結果等を共有し、教育内容や授業方法について検討している。</p> <p>また、本プログラムは本学独自の認定プログラムにも位置付けており、全学的な教育の一環として推進している。「データサイエンス基礎」は1年次必修科目として開講しており、全学部全学科の学生がデータサイエンスおよびAIに関する基礎的素養を身に付ける機会を確保している。</p> <p>今後も運営会議において本プログラムの実施状況を確認しながら、教育内容の充実にに向けた検討を行っていく予定である。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムは令和7年度に開設されたものであり、現時点では本プログラムを修了した卒業生はまだ輩出していません。そのため、本項目に関する具体的な進路状況や企業等からの評価については、今後の把握・分析の対象となる。</p> <p>なお、本学では進路状況調査および卒業生アンケート調査を通じて卒業生の進路状況の把握を行っていることから、今後、本プログラム修了者についても進路状況や社会での活躍状況等の把握・分析を行い、教育プログラムの改善に活用していく予定である。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本学では、教育成果の把握を目的として、就職課が企業・団体を対象に卒業生に関するアンケート調査を実施している。本調査では、新卒学生を採用している企業等から意見を聴取し、企業が求める人材像や期待される能力について把握するとともに、その結果を大学教育の質の向上および学生のキャリア支援の強化に活用することとしている。調査結果は、今後のカリキュラムや教育内容の改善に向けた基礎資料として活用する予定である。</p> <p>なお、本プログラムは令和7年度に開設したものであるため、現時点では本プログラムに関する産業界からの具体的な評価の蓄積はない。今後は、企業アンケート等を通じて社会で求められる能力や知識の把握に努め、その結果を踏まえて教育内容の点検・改善を行っていく予定である。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<ul style="list-style-type: none"> ・AIを活用したアプリ(GeminiのNanoBananaやSoraなど)を紹介し、AIの進歩を実感できるようにした。 ・データサイエンスの創造的な側面を強調するため、自然言語処理・画像処理・音声処理について時間を割いて解説した。 ・「計量テキスト分析による景気判断」など、教員自身の研究事例を紹介し、学習内容が実社会と結びつくことを示して興味・関心を高めた。
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・動画教材の作成にあたり、データサイエンスの進歩を実感できるよう、複数のツールを活用した。学生からは好評だった(アンケート結果より)。 ・動画作成ソフト「ゆっくりMovieMaker4」と音声合成ソフト「VOICEVOX」を用いて、アニメーション形式の解説動画を作成した。 ・モーションキャプチャーソフト「WebcamMotionCapture」とキャラクター生成ソフト「VRoid Studio」を用いて、動くキャラクターによる解説を取り入れた。 ・音楽生成ソフト「Suno AI」を活用し、毎回の授業の要点をまとめた楽曲を授業の最後に提示した。 ・一部の動画には字幕を付与し、理解を補助した。学生からは「分かりやすい」との評価を得た。